



大阪医学統計学セミナー 第4回

Osaka Biostatistics Seminar

11月28日 (火)

18:00~19:30



OSAKA UNIVERSITY

場所

CoMIT 4F 会議室B,C

最先端医療イノベーションセンター

<http://www.comit.med.osaka-u.ac.jp/>

臨床的に解釈しやすい 境界内平均生存時間 (RMST)

講演者：長谷川貴大(塩野義製薬株式会社)

概要：

臨床試験の生存時間解析では、ハザード比を用いて治療効果の大きさを評価することが多い。しかし、これには様々な矛盾を孕んでおり、統計的な解釈を臨床的な解釈へ翻訳することが難しい。そこで、境界内平均生存時間 (Restricted Mean Survival Time; RMST) の利用が近年、提案され、臨床系雑誌でも議論され始めている。RMSTは、生存関数のある一定の期間までの曲線下面積に相当し、また時間という単位で解釈できるという特徴があり、臨床家にとっても受け入れやすい指標と考えられる。適用例を通じて、RMSTの性質を紹介する。

お問い合わせ：大阪大学大学院医学系研究科・医学部 医学統計学講座

E-Mail : office@biostat.med.osaka-u.ac.jp TEL : 06-6879-3301